

平成 30 年度全国学力学習状況調査分析

平成 30 年 8 月
三島市立中郷小学校 研修部

1 平均正答率

国語 A (基礎) : 県平均や全国平均よりやや低い
中郷小 < 県 < 全国

国語 B (応用) : 県平均や全国平均より高い
中郷小 > 県 > 全国

算数 A (基礎) : 県平均、全国平均と同等
中郷小 = 県 = 全国

算数 B (応用) : 県平均、全国平均より低い
中郷小 < 県 < 全国

理科 : 県平均、全国平均より高い
中郷小 > 県 < 全国

2 各設問毎の正答率グラフとそれからわかる特徴

国語 A の特徴

○全体的な傾向

「話す・聞く能力」や「書く能力」は、県平均・全国平均より高い。「読む能力」は県平均・全国平均よりやや低い。

・正答率が高い項目

- 目的に応じ、自分が伝えたいことについて、筋道を立てて話す。（「話す・聞く能力」）
- 文章全体の構成の効果を考える。（「書く能力」）

・正答率が低い項目

- 目的に応じて必要な情報を捉える。（「読む能力」）
- 漢字を文の中で正しく使う。（「言語についての知識・理解・技能」）

国語 B の特徴

○全体的な傾向

「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」は、県平均・全国平均より高い。また、「読む能力」は、県平均よりやや低いが、全国平均より高い。

・正答率が高い項目

- 目的に応じて文章全体の構成の効果を考える。（「書く能力」）
- 計画的に話し合うために、司会の役割について捉える。（「話す・聞く能力」）

→目的に応じて自分の考えを明確にしながら読む。（「国語への関心・意欲・態度」「読む能力」）

・正答率が低い項目

→目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む。（「読む能力」）

算数Aの特徴

○全体的な傾向

領域別にみると、「数と計算」の領域は、県・全国よりも高い。しかし、「量と測定」・「図形」・「数量関係」の3領域は、県・全国よりも低い。その中で、「数量関係」の領域では、単位量当たり
の大きさを求める除法の式と商の意味についての理解が低い。

観点別にみると、「数量や図形についての知識・理解」は、県・全国よりも高い。しかし、「数量や
図形についての技能」は、県・全国よりも低い。

・正答率が高い項目

→針金1mの重さを求める式を選ぶ。（数量や図形についての知識・理解）

→3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く。

（数量や図形についての知識・理解）

・正答率が低い項目

→㉗と㉘の二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。

（数量や図形についての知識・理解）

→示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ。

（数量や図形についての技能）

算数Bの特徴

○全体的な傾向

領域別にみると、「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の4領域とも県・全国よりも低い。

観点別にみると、「数学的な考え方」・「数量や図形についての知識・理解」とも県・全国よりも低い。その中で、規則性を解釈し、それを基に条件に合う事象を判断する問題では、無回答率が15%を超えており、課題であると考えられる。

・正答率が低い項目

→横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適応して書く（数学的な考え方）

→横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く。（数学的な考え方）

→4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの30個目の折り紙の輪の色を選ぶ。

（数学的な考え方）

理科の特徴

○全体的な傾向

領域別にみると、「生命」領域は、県・全国よりも高く、「エネルギー」はやや高い。「物質」・「地

球」の2領域は県・全国よりもやや低い。

観点別にみると、「思考・表現」・「知識・理解」は県・全国よりも高いものの、「関心・意欲・態度」・「技能」の2観点は県・全国よりも低い。観察・実験の方法を主体的に考えることで、学習への意欲をもち、正しい技能を身に付けたり、理科を学ぶ楽しさをさらに実感したりすることにつながるものが今後の課題だと考える。

・ 正答率が高い項目

→科学的な言葉や概念を理解している。(知識・理解)

→予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。(思考・表現)

・ 正答率が低い項目

→野鳥のひなを観察できる方法を構想できる。(関心・意欲・態度)

→ろ過の適切な操作方法を身に付けている。(技能)

3 児童質問の特徴

・ 高い値を示した項目

○質問番号(13)「家で予習・復習やテスト勉強などの自主学習において、教科書を使いながら学習をしている。」

「している」…58.8% (全国 37.5%)

○質問番号(41)「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。」

「当てはまる」…84.3% (全国 66.6%)

○質問番号(47)「観察や実験を行うことは好きだ。」

「当てはまる」…90.2% (全国 68.8%)

・ 低い値を示した項目

○質問番号(2)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」

「当てはまる」…35.3% (全国 42.5%)

○質問番号(14)「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)」

「3時間以上」…3.9% (全国 12.5%)

○質問番号(50)「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。」

「当てはまる」…23.5% (全国 29.4%)

4 総論

国語 A (基礎) は、今年度は、県・全国平均よりも低く、国語 B (応用) は、高かった。

国語については、「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、筋道を立てて話す」は、県・全国より高いとなった。しかし、「漢字を文の中で正しく使う」問題では、無回答率が高かった。

算数 A・B は、昨年度、県・全国平均に達していなかった。しかし、今年度は、算数 A に関して県平均と同じ値になり、全国平均に対しては、0.5 ポイント達しない結果となった。いずれにしても、昨年度

と比べ、県・全国平均との差を縮めた。算数Bは、県・全国平均より低い。昨年度と比べ、県・全国平均に対しての差がひらいた。算数については、グラフから変化の特徴を読み取る問題（技能の観点を用いた問題）や数量を関連付けて根拠を明確にして説明する問題（数学的な考え方の観点を用いた問題）では、無回答率が高かった。

理科については、領域・観点・項目すべてで、半数は県・全国より高く、残りの半数は低いという結果になった。その中で「思考・表現」・「知識・理解」の観点では、正答率が県・全国ともに大きく上回る項目が見られた。一方で、無回答率が高かった、実験の内容を改善する記述問題や「自然事象についての関心・意欲・態度」が県・全国ともに大きく下回っているのは課題である。

国語、算数、理科ともに、無回答率が高かった内容の領域を再度確認し、授業改善を進めるにあたって、意識して取り組んでいく必要がある。

生活習慣について

地域社会との関連に関して、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童が全国平均を大きく上回った。（本校 51% 全国 35.9%）。また、「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」という質問に対しても、「当てはまる」と回答した児童が全国平均を上回った。（本校 23.5% 全国 17.3%）。このことから、地域との関わりを大切にしている本校の児童の特徴が見られる。

家庭学習については、「家で予習・復習やテスト勉強などの自主学習において、教科書を使いながら学習をしている。」という質問に対し、「している」と答えた児童が全国よりも 20%以上多くなっている。

しかし、学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）という質問では、「3時間以上」と回答した児童が全国に比べてかなり低いことが分かる。（本校 3.9% 全国 12.5%）。だが、違う視点から結果を見てみると、「2時間以上3時間未満」、「1時間以上2時間未満」は、全国平均を上回っている。この2つの結果から、本校の児童は、家庭学習をする習慣はついてきているので、今後もその習慣を大切にしつつ、取り組む時間の底上げを図っていきたい。また、家庭での時間の活用について、保護者が集う機会を利用して話し合い活動を展開していくなど、生徒・保護者の意識を高めていく必要もあると考える。

読書量に関して、「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という質問では、2時間以上読書をしている児童が約 20%おり、全国平均を大きく上回った。（本校 19.6%、全国 7.8%）。その反面、30分以下の読書量の児童も多く、家庭で読書に取り組む児童とそうでない児童との2極化が見られる。学校では、保護者による読み聞かせや、図書委員会によるおすすめ本の紹介など、様々な取り組みを行っている。今後も本に興味・関心がもてる取り組みを引き続き行っていきたい。